モンテッソーリ教師～心得 12 条～

園ではモンテッソーリ教育を取り入れています。職員は独自の教具の使い方や子どもと関わるうえでの考え方を外部に学びに行ったり、その学びを職員間で共有し合ったりしています。それで子ども達の育ちへ最大限にアプローチ出来るようにしています。

今回はそんなモンテッソーリ教育の中で、大切にされている教師の心得 12 条を紹介します。

① 環境の整備
② 教具・教材をはっきり正確に提示するー子どもが仕事を始めるときー
③ 子どもが環境との交流をもち始めるまでは積極的に、交流が始まったら消極的に接する
④ 物を探している子どもや、助けの必要な子どもの忍耐の限度を見守る
⑤ 原則として、よばれたところに必ず行く
⑥ 子どもに誘われたときは、子どもの要求を、言葉で直接表現されない要求までも含めて、よく聞いてやる
⑦ 仕事をしている子どもを尊重する
（モンテッソーリでは教具をおこなうことを「お仕事をする」と言っています）
⑧ 間違いはあからさまに訂正しない
⑨ 休息している子どもには、無理に仕事をさせない
⑩ 作業を拒否する子どもや理解しない子どもは、忍耐強く誘い続ける
⑪ 教師は自分を探す子どもに存在を感じさせる
⑫ 教師は仕事をやり終えた子どものところに姿を現す

私達は日頃から上記のような心得を意識して子ども達と関わっています。
少し解説すると…
③の項目では、子どもが興味を示し集中して取り組むまでは積極的に誘い掛け、集中し始めてからはその集中を妨げないように“見守る”ということが書かれています。誘い掛けたことで子どもが取り組んだ時はつい大人も嬉しくなり、集中している子に「すごいね」「これはどう」「こっちもあるよ」と声をかけてしまいがちです。でもそうではなく、集中している間は見守り、子どもの表情やしぐさから困難そうな場合や飽きが見受けられた際に、アドバイスやフォローをしていきます。
⑩の項目でいう作業の“拒否”は、何かはしたいが、したいことが見つからないという子のことです。このように、子どもの内面まで理解し、その子がやりたい“何か”を見つけられるように、それぞれにあった誘い掛けや対応を心がけています。

今回は教師の 12 条をお子さんとの関わり方や育児の参考にしていただければと思い、ご紹介しました。子どもに「これは間違っている」とあからさまな訂正はしないことや、集中している子どもの姿を尊重するなど、私自身が日々の子育ての中で、意識をしています。しかし、日々の多忙な生活を送る中で、このことを常に意識し実践していくことは難しいと思います。
ご家庭でも、⑤のように呼ばれたところに行ってあげたい…が、食事の準備中、掃除中などは行ってあげられないことも多いと思います。その場合は、「〇〇しているから、待っててね」という言葉かけで後で行き待っててくれたことを褒めてあげる。また「待つ」という約束を守ることの大事さも同時に学ぶことが出来ます。この 12 条は、子どもの見方や自立には、とても良い接し方だと思うので、お子さんが集中している時などに少しでもこのようなことを思い出していただき、子育てのヒントになりましたら幸いです。

（我妻）